

災害に対する備え

7月11日(火)

今年の梅雨は、各地で豪雨災害が発生しました。昨日も九州地方で河川が氾濫するなど甚大な被害が出ました。平成26年の丹波市豪雨災害や西日本豪雨など甚大な被害をもたらした豪雨などは、全国どこでも自然災害が避けられない事実を改めて突き付けました。ニュースでは、「普段災害の少ない所でも最大限の警戒を」と言った注意喚起が行われています。「想定外は想定内」と言った専門家もありました。地方自治体にも、国に準じる計画の策定に努めるよう求めました。具体的には、児童生徒自身に安全を守るための能力を身に付けさせるために、(1)日常生活における事件・事故、自然災害などの現状、原因および防止方法について理解を深め、現在や将来に直面する安全の課題に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにすること

(2)日常生活の中に潜むさまざまな危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動を取るとともに、

自ら危険な環境を改善できるようにすること(3)自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭および地域社会の安全活動に進んで参加し、貢献できるようにすることなどを求めました。これらは、自分の命を守る「自助」にとどまりません。東日本大震災でも、避難所運営で中高生が積極的に役割を發揮する姿が、各地で見られました。安心な社会づくりに参加し、貢献できる力を身に付ける「共助・公助」の視点も重要です。子どもたちは1日の3分の1以上の時間を学校で生活していますが、残りの時間は家庭が中心となります。丹波市豪雨災害も西日本豪雨災害も夜中の時間帯に大きな被害が出ました。家庭でも災害に対する備えなどについて話し合う機会を設けて欲しいと思います。



また本日3年生を対象に性教育の講演会を行いました。講師は野村啓子先生です。野村先生は元体育教師で、現在は性教育の講演会を行う傍ら、タイのチェンライの少数民族の支援を自費で行われています。みんな真剣に話が聞いていました。

